

◎組合訪問記 「三菱重工労働組合横浜製作所支部」

組合員の幸せづくりのため全力投球！

地引網



ナイスライフコース



横製まつり



Q1 まず、三菱重工労働組合横浜製作所支部の成り立ちと組合員数、役員体制などについてお聞きしたいと思います。

井手 横製労組は05年に組合結成60周年を迎えました。三菱重工労組自身が結成40周年ですから、その20年前から前身として長い歴史を持っています。組合員は、横製全体で1700名、そのうち、本牧工場に700名、金沢工場に1000名います。役員体制は、執行部7人で、そのうち専従は4人です。書記は本牧組合会館に2名、金沢工場の組合事務所に1名います。

Q2 三菱重工労働組合横浜製作所支部の伝統の中で、大切にされているものは何ですか。

井手 横製支部の伝統としては、職場では「他の人を思い遣る気風」を大切にしています。冠婚葬祭の葬のところでは、みんなで手伝いにいくという家族的な連帯感が伝統的にあります。これは組合に限らず、会社としての伝統があり、昔から人が困っていたら、助けてあげるといような連帯感がありますね。後は、明るいことですね。一見能天気な所もありますが、長崎造船所

も横浜と似ているところがあり、明るいですね。よそ者でもいろいろな人をおおらかに受入れて明るい、開放的な雰囲気を持っています。横製はもともと地方出身者が多いせいでもあるからでしょう。

Q3 三菱重工労働組合横浜製作所支部の主な活動の特徴についてご説明ください。

井手 組合行事としては、最近いろいろな行事をやるとういうことで、今までやってこなかった行事などにもトライしているのですが、最近のヒット行事でいえば、地引網ですね。昨年6月に三浦海岸でやったのですが、たくさん人が集まりました。家族も含めて200人以上が集まりました。その他、男の料理教室なども開催していましたが、あまり人が集まりませんでした。後は、他の労組でもやっていることですが、生涯学習の取組みもやっています。特に50代前半層を対象とした「ナイスライフコース」では、三菱重工横製発祥の地にある横浜ランドマークタワーに夫婦単位で参加し宿泊する形式で、だいたい40組くらい参加します。マネープランや老後プラン、健康について学んでいます。それから、昔から

●三菱重工労働組合横浜製作所支部委員長

井手雅弘

いで・まさひろ

昭和46年、三菱重工業（株）横浜製作所入社。造船工作部配属、昭和55年、新造船撤退に伴い鉄構部に異動。平成8年から支部執行委員として4年、産別地方協議会事務局長2年、支部書記長4年を経て平成18年10月より支部執行委員長に就任。



人気があるのが、組合主催のソフトボール大会で、春と秋の2回、金沢八景島近くにある健保組合グラウンドで開催しています。職場から約40チームと多くの家族を含めた応援団が集まります。

それから、会社と組合の共催で「横製祭り」という家族を含めたイベントを2年に一度、やっています。昨年は5月に家族や地域の方々も含めて金沢工場で開催し、約3000名が集まりました。特に、金沢工場の敷地には世界最大級の風車が設置してあることから、風車を近くでみたいという近隣の方々も多く集まりました。横製祭りのメインイベントとして「高木ブー」の

三菱重工労働組合横浜製作所支部

組合事務所風景



ステージショーなどもやりました。
Q4 今、コミュニケーションが不足している状況の中で、組合として取り組んでいることは何かありますか。

井手 コミュニケーション不足は大きな課題と受け止めています。今パソコン業務が主流となる中で、同じフロア内でも電子メールのやり取りで情報交換が行われています。職場の中での会話の無い状態に危機感を持っています。そのために職場での挨拶活動や日常的に行ったり、各種研修会の中にも、コミュニケーションの向上を図るようなカリキュラムを織り込むようにしています。また、委員研修会や安全研修会においても、メンタルヘルスやストレスマネジメントの講座を入れた取り組みをしています。

Q5 社会貢献活動の面で取り組まれていることはありますか？

井手 若手組合員が主体となって、「ともしび募金」活動を毎年一回実施しています。協力頂いたお金で地域の障害者施設を訪問し、障害者機能回復訓練用器材

や、施設内の老朽化した事務機器などを購入して贈呈しています。その他、施設で行われるバザーのお手伝いもしています。逆に事業所内で行われる駅伝大会などの行事に、施設の皆さんを招待するなど、同時に交流も図っています。

また、富士社会教育研究所が主催している富士山の美化運動、植樹運動に参加するなどの活動を行っています。
Q6 組合教育はどんなことをやっていますか？

井手 大きくは2種類に分けた教育・研修を行っています。まず既存研修として期のはじめに新職場委員を対象に新委員研修会を、その後全委員が参加して機関構成員としての活動等について委員研修会を開催します。その他管理・監督者労働講座や昇格して非組合員となった新任課長に対して組合活動を理解してもらうための教育も行っています。

次に三菱重工労組全体の取り組みとして、20〜50歳代の各年代別に教育プログラムを組んだ生涯学習が体系化されています。年間を通して全プログラムを消化します。また、参加者の意見・要望を反映したカリキュラムづくりに努めています。

Q7 現在、特に重点を置いている活動についてお話しください。

井手 最近では、統一地方選を控え、組織内候補を抱えている中で、政治関連の学習にも力を入れています。また職場単位で研修会を開催しており、各職場の特色を活かした研修を年に一回10〜12月にやっています。

研修の後には、懇親会を開き、組合員の声をより多く聞くようにしています。

Q8 現在、支部として抱えている課題についてお話しください。その課題について、どのようにチャレンジしていこうとされているか、考えをお聞かせ下さい。

井手 現在、横浜製作所自身が大きく変わろうとしている時期ですので、事業再編において、どれだけ組合員の声を反映させることができるかが大きな課題です。その施策に対して、組合として、専門部会や職場討議を行い、職場組合員の声を的確に会社に伝えていきたいと思っています。

Q9 最後に労働組合の活動を進める上で、ご自身のモットー、心がけていることがあれば教えてください。あなたがなりたい労働組合とは何ですか？労働組合の役割とは何だとかんがえますか？

井手 組合員のための労働組合であり、その代表として企業経営等のチェック機能を果たすことは勿論のこと、労働条件、福利厚生面など労使協議において先ず組合員の立場に立って交渉を行うことだと思っています。更には組合員からの相談事に関しても解決に向けて協力することで組合員との信頼関係が生まれてきます。地道な活動ではありますが、その積み重ねによって組織力強化にも繋がると信じています。

私たちの労働組合は本部主導の下、13支部が連携を図り活動に取り組んでいます。組合員の幸せづくりのため、引き続き精一杯努力して行きます。

(聞き手：IMF-JC組織総務局 渡辺)